福島原発事故から5年・チェルノブイリ原発事故から30年

原発のない未来へ！

つながろう福島！守ろういのち！

3.26全国大集会

横断幕を持ってデモ行進しました

グリーンコープは脱原発をめざし、全国の思いを同じくする仲間と様々な運動に取り組んできました。

「原発のない未来へ！3・26全国大集会」などの主催で、東京都の代々木公園で開催され、全国から3万5千人（主催者発表）が集結し、脱原発を訴えました。グリーンコープからは、組合員21人が参加しました。

集会のようすと参加した組合員の思いを紹介します。

第2ステージの集会

グリーンコープの組合員は、代々木公園野外音楽堂で行われた第2ステージの集会に参加。「つながろう福島」というテーマで、福島の人たちからの報告を聞いた。

福島第一原発で作業員をしていた人は、「第三次下請けだったので、危険が伴う作業であるにも関わらず手当は少なく、仕事を辞めた今は健康がとても心配だ。今も不安の中で作業をしている人たちが安心して仕事ができるように、国が労働条件や福利厚生などを整備するべきだ」と訴えた。

原発から7～33km離れた葛尾（かつらお）村のある畜産農家は、「事故後、自治体から牛の販売も移動も認めない、安楽死をさせることもできないと言われ、ありったけのロープで動けないように牛を縛り避難した。約1ヵ月後一時帰宅すると、すべての牛が餓死していた。その光景は今でも忘れることができない」と辛い体験を語った。

関東で放射能から子どもを守るために活動をしている、約40のグループのネットワークからは、「各グループは地域の取り組みなどに積極的に参加することで、共に活動する仲間を増やしてきた。原発事故から5年間、協力し合って関東に住む子どもたちの保養や検査を国や自治体に求めている。粘り強く声をあげ続けることで、子どもの検査費用の助成が実現したところもある。これからも力を合わせて、子どもたちの健康調査なども実現させていきたい」と報告した。

メインステージの集会

汚染地域から避難するか留まるかを自己決定する権利の保障を求めて活動している団体は、「留まることを選択した人たちには、被曝被害から身を守る保障と支援が必要。強制避難させられた人たちや避難を選択した人たちの中には、職やコミュニティなど多くのものを失い、苦しんでいる人も多い。今改めて、基本的人権の保障を求めて、避難当事者が声をあげていく時がきている」と思いを述べた。

集会に参加したグリーンコープの組合員は、「原発事故は終わっていない、脱原発の声をあげていこう」と、他の参加者と共に横断幕を持って渋谷駅までデモ行進した。脱原発の実現に向けて、思いを同じくする全国の仲間と共に取り組んでいることを実感する機会となった。

子どもたちのために脱原発を進めたい

グリーンコープ生協ふくおか
理事長　大橋 由美子さん

２012年の集会にも参加しました。前回よりベビーカーを押している人や若い人も増えて、様々な世代の人が参加していると感じました。福島の原発事故後の状況を知らせることで、関心を持つ人が増えてきているのではないかと思います。

私たち組合員も含め、今日集まった人たちの「子どもたちのために、そして未来の生命のために」という共通の願いを、脱原発へと進む大きな力にしていきたいと改めて思いました。

連帯する仲間からエネルギーをもらった

グリーンコープ生協みやざき
理事長　鈴江 信子さん

今日の集会はもちろん、一昨年の福岡の集会でも脱原発に対するたくさんの力強いメッセージを聞くことでエネルギーをもらっています。

集会に参加された年齢も国も性別も様々な人たちの一人ひとりの力が、大きなうねりとなって会場を包んでいるように感じました。

再生可能エネルギーの賛同者を広げる取り組みを進めていくために、今日感じたことを周りの人たちに伝えていきたいと思います。

脱原発に向けて行動しよう

グリーンコープ生協ふくおか
福岡地域理事長　北口 淳子さん

同じ思いの団体がこんなにいるのかと心強く感じました。グリーンコープの東日本大震災五年後集会と今日の集会で福島の方の話を聞き、まだまだ原発事故は終わっていないということを実感しました。

脱原発実現のための署名をする、グリーンコープ・グリーン電力出資金に出資する、復興支援の商品を買うなど自分ができることから実践してみましょうと、周りの組合員に呼びかけたいと思います。

子どもたちの未来のために　No.93

グリーンコープの放射能検査について

３０年前のチェルノブイリ原発事故を受けて、「大切ないのちを守りたい」との組合員の思いから、グリーンコープで食品の残留放射能検査がはじまりました。食べものの放射能汚染の現状を知り、自分たちで判断できるように放射能測定を行なっています。

東日本大震災後の原発事故から５年経ちましたが、今もなお、日常生活の中で目に見えない放射能への不安が続いています。

放射能に安全な数値などありませんが、グリーンコープでは取り扱っている食べものの自主基準値を10ベクレル／ｋｇとし、それを超えるものは、共同体理事会で取り扱いを検討しています。また、すべての検査結果は、「共生の時代」や、ホームページに掲載しています。

「未来ある子どもたちのために、安心・安全な食べものを食べさせたい」という思いを実現するために、私たちが何をするべきかを一緒に考え、行動し、脱原発社会をつくっていきましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会

グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,759人　1,051,939,000円
（2016年4月9日現在）

「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

2016年2月の売電量

神在太陽光発電所売電量 78,060kWh 定格出力1,057kW（280世帯相当）	広島物流センター 太陽光発電所売電量 4,329kWh 定格出力47kW（13世帯相当）
若宮物流センター 太陽光発電所売電量 3,746kWh 定格出力47kW（13世帯相当）	グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所売電量 2,907kWh 定格出力54kW（15世帯相当）